

作・松井柚子 (イラストも)  
 監修・武永昭光 (シヨアランドセル代表)

●8月 法則にかなったディスプレイ

センスの前に大切なこと

3人は、自分が買いたい物をする時にも考えながらお店を見るようになっていた。  
 入りたくなるお店、また来たいと思えるお店には、どのような共通点があるのか、引かれるディスプレイの特徴はどのようなものか、観察するための、自分たちと違うことをやっていた場には試して比較し、ルクリアとしての正解を出すことにしていた。

今日の視察は、贈店長と麻紀だ。衣料品だけではなくアクセサリーなどの服飾雑貨も取り扱っているお店。壁面のディスプレイを見て、麻紀が言った。  
 「あのディスプレイ、素敵ですね。私もあんなセンスがあったらなあ」

「麻紀にもできるよ。ディスプレイはセンスより法則が大切だからね」  
 そこにはバッグ、帽子、靴の三つの商品でコーディネートされたディスプレイが三つ並んでいた。三つそれぞれが同じ構成で、真ん中に帽子、左下にバッグ、右下に靴が置かれている。  
 帽子の色は全てベージュで、バッグと靴は全て茶色だ。



「このディスプレイは、バッグと靴が帽子と重なって、二つひとつが固まりになっているでしょ。なぜだか分かる？」  
 「うん……とっしてですか？」

「それはね、固まりを作ることによって目を入れやすくするため、人間って固まりの目がいく習性があるの」  
 「へえー、そんなんですか？」

「それが『タイト』っていう法則だよ。そして大事なのがディスプレイとディスプレイの間に空間を作ること」  
 「空間があるから固まりだと認識してもらえない、つまりディスプレイが目に入るってことですか？」  
 「そう、センスも大切だけど、法則を知ることが、魅力的なディスプレイを作ることができるの」

麻紀は、感性が鋭く流行に敏感な人が、良いディスプレイをつくるのだと思っていた。

「二つのディスプレイを見た時に、帽子とバッグと靴で三角形を作っているよね。あれは『トライアングル』っていう法則。あと、ベージュの帽子と茶色のバッグと靴の組み合わせが3回繰り返されているよね。同じものを繰り返すのは『リピテーション』といって、違和感なく目に入る構成なの」

「すごい！ 法則通りに作られていたんですねー」  
 「そう。他にも『シンメトリー』っていう法則もあるのね。左右対称のこと。二つの固まりの中でシンメトリーにすることもあるし、ディスプレイ全体を見た時にシンメトリーにする場合もあるの。仕器レイアウトでも壁面を作るときにも使われることがあるから、覚えておくといいよ」

「今度から法則通りに作ってみます！ 立ち止まってくれろ人が増えるディスプレイが私にも作ることができそうな気がしてきました！」

「頼もしいね」  
 贈店長は麻紀に期待していた。お客様の反応が変わるか楽しみだ。

※この物語はフィクションです。実際のシヨップ、人物とは一切関係ありません。